

# オーストリア

Republic of Austria

	2013年	2014年	2015年
①人口：858万人（2015年）			
②面積：8万3,879km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：4万3,724米ドル （2015年）			
④実質GDP成長率（%）	0.3	0.4	0.9
⑤消費者物価上昇率（%）	2.0	1.7	0.9
⑥失業率（%）	5.4	5.6	5.7
⑦貿易収支（100万ユーロ）	△995	1,558	2,634
⑧経常収支（100万ユーロ）	6,295	6,380	8,636
⑨外貨準備高（100万米ドル）	12,474	14,145	12,698
⑩対外債務残高（グロス）（100万ユーロ）	599,474	608,488	591,495
⑪為替レート（1米ドルにつき、ユーロ、期中平均）	0.7532	0.7537	0.9017

〔注〕⑦：国際収支ベース（財のみ）  
〔出所〕①②④：オーストリア統計局、③⑨⑩：IMF、⑤～⑧⑩：オーストリア国立銀行

2015年におけるオーストリアの実質GDP成長率は0.9%と前年の0.4%を上回った。原動力は内需。輸出入は共に緩やかに伸びた。直接投資は対内が半減、対外が3倍となった。対日貿易は、機械・輸送機器を中心に輸入が7.2%増加した。オーストリアの対日投資は前年比で倍増した。

## ■ 内需主導で緩やかな景気回復

2015年のオーストリアの実質GDP成長率は0.9%と、過去3年の成長率を上回った。これは民間および政府最終消費支出が緩やかに拡大したことによる。前年0.0%だった民間最終消費支出は、前年比0.4%増となった。難民関連支出（民間団体への委託費が含まれる）が民間最終消費支出を押し上げた。2015年半ばからオーストリアへの難民申請が急増し、通年で前年比3倍の9万件となった。難民申請者の滞在経費負担と生活必需品の配布のため、政府最終消費支出も増加した。国内総固定資本形成は下半期から緩やかに上昇した。企業の設備投資が2.8%拡大したことによる。

消費者物価上昇率は、2013年に2.0%、2014年に1.7%と推移してきたが、2015年は0.9%とさらに低下した。原油価格と石油製品価格の下落が主因だ。失業率は前年の5.6%から5.7%へと悪化した。

2016年に入って、経済成長は緩やかに加速した。オー

表1 オーストリアの需要項目別実質GDP成長率

	2014年	2015年				2016年 Q1	
		Q1	Q2	Q3	Q4		
実質GDP成長率	0.4	0.9	0.5	1.0	0.9	1.0	1.6
民間最終消費支出	0.0	0.4	0.0	0.2	0.4	0.9	1.3
政府最終消費支出	0.8	1.4	0.7	1.1	1.1	2.7	1.3
国内総固定資本形成	△0.2	0.5	△1.6	0.1	1.5	1.6	2.6
財貨・サービスの輸出	2.1	1.6	1.5	1.7	2.3	1.1	3.2
財貨・サービスの輸入	1.3	1.9	△0.2	△0.2	3.6	4.2	3.9

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕オーストリア国立銀行

ストリア経済研究所（WIFO）は、オーストリア国立銀行と同様に、2016年の実質GDP成長率を前年比1.6%増と見込んだ（5月30日発表）。2016年1月から施行の税制改革による可処分所得上昇や難民のための政府支出拡大をその理由に挙げている。

## ■ 対米輸出、2桁の伸び

2015年の貿易は、輸出が前年比2.7%増の1,315億5,400万ユーロ、輸入は2.4%増の1,330億200万ユーロだった。輸出は過去4年連続で拡大した。輸入も3年ぶりに前年を上回った。主として設備投資の拡大が輸入増大につながった。貿易赤字は2014年の17億4,100万ユーロから14億4,800万ユーロへと減少した。

輸出を品目別にみると、機械・輸送機器（構成比39.7%）、原料別製品（22.1%）、化学品（13.6%）で全体の4分の3を占める。機械・輸送機器は前年比4.4%増の522億300万ユーロに拡大した。伸びが著しかったのは、電気・電子機器（7.1%）の8.9%増。従来の輸出の牽引役である道路輸送機器（9.0%）も6.7%増と堅調に拡大した。自動車部品（3.1%）の5.9%増は主に、7.2%増のドイツ向けだった。そのほか、ポーランド19.2%増、ルーマニア18.2%増、スロバキア7.2%増、チェコ5.9%増と増加した。オーストリアの部品メーカーが中・東欧の自動車産業のサプライチェーンでシェアを拡大したのだ。

輸出を国別で見ると、全体の69.1%を占める

表2 オーストリアの主要品目別輸出入

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2014年	2015年			2014年	2015年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械・輸送機器	50,014	52,203	39.7	4.4	42,907	45,344	34.1	5.7
道路輸送機器	11,073	11,810	9.0	6.7	12,693	13,494	10.1	6.3
乗用車	4,235	4,375	3.3	3.3	6,645	7,084	5.3	6.6
自動車部品	3,795	4,020	3.1	5.9	3,514	3,519	2.6	0.2
電気・電子機器	8,581	9,347	7.1	8.9	7,836	8,407	6.3	7.3
一般機械	7,973	8,530	6.5	7.0	7,024	7,314	5.5	4.1
産業用機械	7,218	7,370	5.6	2.1	3,677	3,918	2.9	6.6
原動機	6,703	6,951	5.3	3.7	3,676	3,794	2.9	3.2
通信機器	2,883	2,935	2.2	1.8	3,313	3,638	2.7	9.8
原料別製品	28,150	29,011	22.1	3.1	20,093	20,956	15.8	4.3
鉄製品	6,967	7,144	5.4	2.5	3,548	3,609	2.7	1.7
金属製品	6,936	6,991	5.3	0.8	5,393	5,631	4.2	4.4
化学品	17,795	17,919	13.6	0.7	17,647	18,362	13.8	4.1
医薬品	8,516	8,474	6.4	△0.5	7,283	7,999	6.0	9.8
雑製品	14,864	15,214	11.6	2.4	19,044	20,024	15.1	5.1
燃料・エネルギー	3,059	2,574	2.0	△15.8	13,010	10,428	7.8	△19.8
原油・石油製品	1,826	1,362	1.0	△25.4	8,797	6,200	4.7	△29.5
天然ガス	393	353	0.3	△10.2	2,643	2,649	2.0	0.2
食品・動物・飲料・たばこ	9,276	9,573	7.3	3.2	9,858	10,152	7.6	3.0
原料	3,813	3,933	3.0	3.2	5,741	5,557	4.2	△3.2
コルク・木材	1,388	1,456	1.1	4.9	1,332	1,313	1.0	△1.4
総額(その他含む)	128,106	131,554	100.0	2.7	129,847	133,002	100.0	2.4

[注] EU域外貿易は通関ベース（輸出はFOB、輸入はCIF）、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

[出所] オーストリア統計局

表3 オーストリアの主要国・地域別輸出入

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出				輸入			
	2014年	2015年			2014年	2015年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU28	88,187	90,841	69.1	3.0	92,485	93,686	70.4	1.3
ユーロ圏	65,924	67,295	51.2	2.1	74,498	75,353	56.7	1.1
ドイツ	38,082	39,464	30.0	3.6	48,543	49,091	36.9	1.1
イタリア	8,237	8,268	6.3	0.4	8,033	8,197	6.2	2.0
フランス	6,265	5,885	4.5	△6.1	3,629	3,584	2.7	△1.3
スロバキア	2,608	2,715	2.1	4.1	2,867	2,965	2.2	3.4
非ユーロ圏	22,207	23,504	17.9	5.8	17,987	18,333	13.8	1.9
チェコ	4,355	4,766	3.6	9.4	5,405	5,558	4.2	2.8
ハンガリー	4,290	4,312	3.3	0.5	3,824	3,408	2.6	△10.9
英国	3,943	4,174	3.2	5.9	2,306	2,454	1.8	6.4
ポーランド	3,840	4,135	3.1	7.7	2,569	2,970	2.2	15.6
アジア大洋州	9,701	9,808	7.5	1.1	13,177	14,244	10.7	8.1
中国	3,380	3,305	2.5	△2.2	7,323	7,910	5.9	8.0
日本	1,331	1,350	1.0	1.4	1,746	1,875	1.4	7.4
ASEAN	1,282	1,315	1.0	2.6	1,852	2,113	1.6	14.1
インド	594	701	0.5	17.9	626	702	0.5	12.2
米国	7,781	9,084	6.9	16.7	4,404	5,254	3.9	19.3
スイス	6,686	7,121	5.4	6.5	6,633	7,497	5.6	13.0
ロシア	3,194	1,978	1.5	△38.1	2,295	2,332	1.8	1.6
アフリカ	1,616	1,675	1.3	3.6	2,097	1,747	1.3	△16.7
ブラジル	707	637	0.5	△9.9	321	349	0.3	8.8
合計(その他含む)	128,106	131,554	100.0	2.7	129,847	133,002	100.0	2.4

[注] ① EU域外貿易は通関ベース（輸出はFOB、輸入はCIF）、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

② アジア大洋州はASEAN+6（日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド）に香港および台湾を加えた合計値。

[出所] オーストリア統計局

EU28が前年比3.0%増となった。うち、ユーロ圏（構成比51.2%）は2.1%増、非ユーロ圏（17.9%）は5.8%増となった。EUの緩やかな景気回復を反映した結果だ。EU28では、ドイツ（30.0%）が3.6%増と堅調に伸びた。中・東欧のEU加盟国も、チェコ（3.6%）が9.4%増、ポーランド（3.1%）が7.7%増、スロバキア（2.1%）が4.1%増と伸長した。

EU以外では、米国（構成比6.9%）の16.7%増が注目される。米国は、イタリアを抜き、輸出相手国の2位に浮上した。飲料品は40.3%増、産業用機械は35.4%増と伸びた。他方、中国（2.5%）は2.2%減となった。中国経済の低迷が主因だ。

輸入を品目別にみると、構成比34.1%を占める機械・輸送機器が前年比5.7%増の453億4,400万ユーロとなった。うち、電気・電子機器（6.3%）が7.3%増、産業用機械（2.9%）が6.6%増、乗用車（5.3%）が6.6%増と伸びた。乗用車輸入は、スロバキア85.0%増、ポーランド68.7%増、米国62.8%増と、大幅に増加した。新車登録台数も2015年は5年ぶりに上昇し、前年比1.7%増の30万8,555台となった。

雑製品（15.1%）が5.1%増、原料別製品（15.8%）が4.3%増、化学品（13.8%）が4.1%増と堅調に拡大した。雑製品の中では、カメラ（0.7%）の16.0%増と洋服（0.3%）の12.0%増、原料別製品では、卑金属（2.9%）の18.0%増と鉄鋼製品その他（4.2%）の4.4%増の伸びが大きかった。化学品では、医薬品（6.0%）が9.8%増と伸びた。

輸入を国・地域別でみると、全体の70.4%を占めるEU28は、前年比1.3%増。最大の輸入相手国のドイツ（構成比36.9%）は前年比1.1%増の490億9,100万ユーロだった。とりわけ、機械・輸送機器の3.4%増と原料別製品の2.9%増の伸びが堅調だった。イタリア（6.2%）からも2.0%増となり、輸入相手国2位を維持した。非ユーロ圏では、ポーランド（2.2%）からの輸入が15.6%増と大幅に拡大した。EU以外の国では、米国（3.9%）からの輸入が19.3%増と伸びが目立つ。最大の輸出品目である医薬品（36.9%）の34.0%増の他に、自動車の38.4%増、産業用機器の25.1%増と計測機器の17.6%増が貢献した。中国（5.9%）は8.0%増だった。構成比47.1%を占める機械・

輸送機器が10.9%増と拡大したが、雑製品（35.6%）や原料別製品（11.2%）がそれぞれ、4.8%増、5.9%増にとどまった。

### ■ 対外直接投資が3倍に拡大

オーストリア国立銀行によると、2015年のオーストリアの対内直接投資（国際収支ベース、ネット、フロー）は、前年比50.8%減の34億6,000万ユーロとなった。オーストリア国立銀行の担当者によると、多国籍企業によるグループ内の資本移動が、大幅な投資引き揚げにつながったという。一方、オーストリア経済振興会社（ABA）は、2015年には前年の過去最多の276社の誘致をさらに21.0%上回る297社の外国企業のオーストリアへの進出を支援した。投資総額は5億ユーロ弱に拡大したと発表した。

対内直接投資を国・地域別でみると、EU28からの投資は前年比3.3倍の60億4,200万ユーロとなった。22億2,300万ユーロのドイツと19億5,900万ユーロのルクセンブルクでEUからの投資の約3分の2を占めた。非ユーロ圏では英国の投資額が6億1,700万ユーロだった。EU域外では、ロシアからの投資が目立つ。自国経済が深刻な状況にもかかわらず、高い投資額を維持した。2010年から引き揚げ超過傾向が続く米国は36億8,000万ユーロの引き揚げ超過だった。

ABAが誘致したドイツ企業は103社と前年を上回り、投資額は前年比25.1%増の3億4,300万ユーロとなった。自動車エレクトロニクスの子会社の研究開発拠点設立、スポーツ用品大手アディダスによる、GPSランニングアプリ開発のランタスティックの買収が代表に挙げられる。

ロシアの石油大手ルクオイルは、オーストリア石油大手OMVから2014年に買収した潤滑剤工場

表4 オーストリアの国・地域別対内・対外直接投資  
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

（単位：100万ユーロ）

	対内直接投資		対外直接投資	
	2014年	2015年	2014年	2015年
	金額	金額	金額	金額
EU28	1,827	6,042	6,228	5,721
ユーロ圏	3,199	5,311	5,885	2,964
ドイツ	△1,177	2,223	△402	586
ルクセンブルク	887	1,959	43	457
イタリア	203	389	△3	840
フランス	559	201	2,005	△197
オランダ	2,107	326	5,503	411
非ユーロ圏	△1,371	731	343	2,757
ハンガリー	△23	△1	164	△243
英国	△1,265	617	△699	△40
ロシア	1,475	1,245	409	△15
日本	1104	395	19	38
アフリカ	3,186	238	41	△1
インド	13	21	44	54
中国	△401	0	360	657
トルコ	△3	△12	272	△37
ブラジル	△376	△141	142	335
スイス	△60	△616	289	△102
米国	△686	△3,680	1,003	452
合計（その他含む）	7,028	3,460	3,818	11,180

〔注〕2015年は暫定値。

〔出所〕オーストリア国立銀行

表5 オーストリアの主な対内・対外直接投資事例（2015年）

＜対内：M&A＞

業種	被買収企業（事業）		買収企業		時期	投資額（ユーロ）	概要
	企業名	企業名	国籍・地域				
ITサービス	ランタスティック	アディダス	ドイツ		8月	2億2,000万	GPSランニングアプリ開発のランタスティックを買収。
食品	ウィーベルク	フルタロム・インダストリー	イスラエル		12月	1億1,900万	食料品製造のウィーベルクを買収することで合意。
機械製造	アンガー・マシーニング	東台精機	台湾		6月	2,000万	アンガー・マシーニングのシェアの76%を買収完了。欧州市場開拓を目指す。

＜対内：M&A以外＞

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
IT	イーシェルター	日本	6月	n.a.	ドイツを中心に欧州でデータセンター関連サービスを提供するイーシェルターがウィーンでデータセンターの提供開始。NTTコミュニケーションズはイーシェルターの株式取得契約締結済み。
金融	みずほ銀行	日本	12月	n.a.	ウィーンで中東欧本部を開設。

＜対外：M&A＞

買収企業 企業名	被買収企業（事業）			時期	投資額 （ユーロ）	概要
	業種	企業名	国籍			
エイ・エム・エス	電子	CMOSIS	ベルギー	11月	2億2,000万	ベルギーの半導体メーカーCMOSISを買収完了。
マグナ	自動車	ゲトラグ	ドイツ	7月	n.a.	ドイツのトランスミッションメーカーのゲトラグを買収完了。

＜対外：M&A以外＞

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
木材	エッガー	ロシア	12月	2億	一貫した技術革新と投資戦略により、ロシアのガガーリン市の床材製造工場を拡大。
金属	フェストアルピーネ	中国	10月	2,500万	瀋陽市で車体工場を稼動。従業員70人。
薬品	グライナー・バイオ・ワン	ハンガリー	11月	740万	西ハンガリーで新オフィスビルと工場を建設。

〔出所〕各社発表および報道などから作成

表6 オーストリアの対日主要品目別輸出入 <通関ベース>

(単位：100万ユーロ、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2014年		2015年		2014年		2015年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械・輸送機器	537	579	42.9	8.0	1,257	1,348	71.9	7.2
自動車・部品	243	225	16.6	△7.7	546	557	29.7	2.0
産業用機械	75	85	6.3	12.5	140	178	9.5	27.1
電気・電子機器	40	46	3.4	15.1	208	239	12.8	15.1
事務用機械	21	14	1.0	△35.5	127	128	6.8	1.2
通信機器	13	22	1.6	64.1	61	51	2.7	△16.3
その他輸送機器	6	9	0.4	48.5	4	2	0.1	△40.9
原料別製品	300	270	20.0	△9.8	115	158	8.4	38.1
木材製品	92	80	6.0	△12.6	0	0	0.0	39.2
金属製品	133	127	9.4	△4.5	27	29	1.5	8.3
その他工業製品	168	155	11.5	△7.7	192	186	9.9	△3.1
計測機器	14	11	0.8	△23.1	0	0	0.0	△2.1
化学工業品	71	59	4.3	△17.4	90	91	4.9	1.4
カメラ、光学機器	7	7	0.5	△6.5	45	40	2.1	△11.5
化学品	113	105	7.8	△7.3	160	162	8.6	1.0
医薬品	11	7	0.5	△35.7	34	49	2.6	42.9
有機化学製品	50	48	3.5	△4.3	16	21	1.1	29.9
原料	81	105	7.7	29.7	12	9	0.5	△30.2
コルク・木材	68	92	6.8	35.0	0	0	0.0	3,366.0
金	40	71	5.3	76.2	4	7	0.4	79.6
食料品	77	52	3.8	△33.3	5	4	0.2	△7.8
飲料品・たばこ	14	12	0.9	△12.5	1	1	0.0	10.2
合計 (その他含む)	1,331	1,350	100.0	1.4	1,746	1,875	100.0	7.4

〔出所〕 オーストリア統計局

の生産能力を2015年に大幅に拡大した。これを機に、子会社のルクオイル・ルブリカンツ・ヨーロッパの本部をアムステルダムからウィーンに移転した。

2015年のオーストリアの対外直接投資は111億8,000万ユーロと前年からはほぼ3倍となり、2013年の水準に回復した。

国・地域別で見ると、全体の3分2を占める欧州は前年比10.6%減となった。中でも、ユーロ圏への投資の減少が49.6%減と著しかった。一方、非ユーロ圏とEU以外の欧州への投資が大幅に拡大した。特にセルビアを中心とした旧ユーゴ諸国への投資が飛躍的に増加し、前年比6倍の30億ユーロに達した。

米国は前年比54.9%減の4億5,200万ユーロだった。ブラジルは、2.4倍の3億3,500万ユーロと拡大した。アジアも55.9%増の21億900万ユーロとなった。

米国案件では、鉄鋼大手のフェストアルピーネが米国でのビジネスを拡大し、2015年11月ウィスコンシン州の同業のウィッケダー・スチール・カンパニーを買収した。2016年も引き続き米国への投資案件がみられる。半導体メーカーのエイ・エム・エスは2016年4月にニューヨーク州ユティカ市で半導体素子製造材料のウエハー工場の起工式を行った。稼働は2018年の予定。中国では、フェストアルピーネが、2015年10月に遼寧省瀋陽市で同社の車体工場を稼働開始した。

## ■日本からの輸入が急増、投資が半減

オーストリアにとって日本は、EU以外ではスイス、中国、米国、ロシアに次ぐ貿易相手国だ。2015年の輸出額は前年比1.4%増の13億5,000万ユーロ、輸入額は7.4%増の18億7,500万ユーロとなった。対日貿易赤字は26.5%増の5億2,500万ユーロと2年連続で拡大した。

対日貿易を品目別で見ると、輸出全体の42.9%を占める機械・輸送機器が前年比8.0%増と堅調に増加した。その他輸送機器（構成比6.4%）が48.5%増、電気・電子機器（3.4%）が15.1%増、産業用機械（6.3%）が12.5%増と伸長した。一方、自動車・部品（16.6%）は7.7%減の2億2,500万ユーロに減少した。これは、主な輸出モデルであった乗用車ミニの生産量が2015年に大幅に減少したことが主因だ。従来の輸出主要品目の木材製品（6.0%）は12.6%減となった。一方、原料のコルク

・木材（6.8%）が35.0%増と大幅に拡大した。金（5.3%）の76.2%増も目立つ。在日オーストリア大使館商務部によると、分散投資などから、日本でオーストリア造幣局発行の「ウィーン金貨」の人気の高まっているという。

日本からの輸入を品目別で見ると、全体の構成比の約4分の3を占める機械・輸送機器は輸入拡大の主な牽引力となり、前年比7.2%増の13億4,800万ユーロだった。自動車・部品（構成比29.7%）は2.0%増と微増だった。うち、乗用車が5.3%増した一方で、自動車部品が10.0%減となった。産業用機械（9.5%）は27.1%増、電気・電子機器（12.8%）は15.1%増とそれぞれ大幅に増加した。原料別製品（8.4%）も38.1%増と大幅に拡大した。

日本からオーストリアへの直接投資は3億9,500万ユーロとなり、前年の11億400万ユーロより大幅に減少した。一方で、ABAが2015年に誘致した日本企業の投資案件は2014年の1件から2015年には10件に急増した。7月にウィーン支店を開業したみずほ銀行をはじめ、10月にケルンテン州でコイル巻線機製造工場を稼働した日特エンジニアリング、その他ライフサイエンス、ロジスティクス卸売りなど関連企業による投資があった。2016年1月には、射出成型機製造の住友（SHI）DEMAGがトゥルン市にサービス・流通拠点を設立した。

オーストリアの対日投資は3,800万ユーロと前年から倍増した。